

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691100051		
法人名	ふるさと企画有限会社		
事業所名	グループホーム大手町 和心		
所在地	山形県新庄市大手町1-25		
自己評価作成日	平成28年8月30日	開設年月日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 10月 7日	評価結果決定日	平成 28年 10月 27日

(ユニット名 1F)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓からは新庄祭りや花火も眺めることができる恵まれた環境にある。市民プラザや図書館などの公共施設や公園、商店街が歩いて行ける距離にあるため、催し物や地域との交流にも気軽に参加しており、買い物や散歩・ドライブなども地の利を活かしている。また、同町内にあるグループホーム大手町との交流や協力体制も整っている。「共に笑ってつながって」の理念のもと感性や感情にふれる交流をし、ご家族がなかなか連れて行けない場所へも職員と外出して自然にふれあうなど非日常を楽しんでいる。また、安心できる環境作りに日々努め、普段からご家族の思い、悩み・不安に耳を傾けながら情報交換を密に行い、信頼関係を築きながら笑顔のある穏やかな暮らしを送るお手伝いをさせて頂いています。

大通りに面した賑やかな町の中に立地し開設以来地域との繋がりを重視してきたことが実を結び、避難訓練では地域の方の参加も得て、雪かきの手伝いや野菜のおすそ分けをいただく等距離が近くなっています。また他事業所と共催で開いた認知症ワンポイント個別相談会では介護で悩む方の相談を受け当事者や市担当者から喜ばれ、「介護で困っている方がいればプロとして引き受けるべき」との思いから可能な限り受け入れを行っています。利用者が進んですることはその方の意思と捉え行動を抑制することなく安全を確保しながら自由な暮らしを支え、職員は家族に代わりどう関わるべきかを考えながら、互いの笑顔を大切にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングや事業所内に理念を掲げ、全職員が常に意識できるようにしている。また、ホーム便りや運営推進会議の資料には毎回理念を載せ、所内研修時にも、確認している。	和心新聞に掲載したり、会議や研修時には確認や振り返りを行っている。また全職員対象に今年度の目標を標語で募集したところ秀作が数多く寄せられ、理念に基づいた日ごろの心がけや利用者に対する思いを再確認することができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やイベント等への参加で地域の方々と交流を持っており、町内会の資源回収への協力や芋煮会・保育所の夏祭りにも参加した。また、避難訓練には近隣の方から参加して頂いた。外壁に掲示板を設置し、地域への発信をしたり、玄関前のベンチは小休止に活用してもらっている。	地域や事業所行事で相互に参加し、避難訓練には近隣の住民にも参加してもらっている。事業所からはミニコンサートに招待するなど普段から良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ワンポイント個別相談会を無料で行った。玄関にはAED設置のステッカーを貼り、市のHPにも登録している。地域のボランティアの受け入れや、各種イベントの広告への協力も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・サービスの状況の報告は毎回行い、外部評価結果報告・家族アンケートの集計結果報告など、テーマを変えて、2ヵ月ごとに行っている。市の担当者・認知症地域支援推進委員・区長・家族の方々の意見を聞ける貴重な場となっている。	利用者の居住市町村担当者にも案内し出来るだけ出席してもらい、行事や現状報告などの他、事前に決めたテーマに沿って進行し、和やかな会議となっている。出された意見やアドバイスなどは取組みに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況・短期利用の空き情報を持参し伝えている。担当者には、運営推進会議に参加してもらっており、情報交換をしている。認知症ワンポイント個別相談会では、呼びかけ・資料の提供の協力や、当日様子を見に来て頂いたりもした。	運営推進会議への出席のほかに地域包括支援センターの研修会に職員が講師として招かれたり、困難事例の受け入れ要請にも可能な限り協力するなど連携を図っている。市担当者からは介護現場のモデルケースとして推薦され新聞の取材を受けるなど信頼を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルを整備し、資料を用いた勉強会・回覧を行い、全職員に周知させている。玄関の開閉は、自動ドアの構造上職員が行っているが、花の水やりや日向ぼっこ、ケアの一環としての外出は出来る限り行っている。	研修やマニュアルの周知により全職員が内容と弊害を認識している。帰宅願望のある方は職員が付き添って歩いたり、立ち上がりの出来ない方がにじり進むなどの行為があっても思いのまま動いてもらうなど、見守りながらリスクを回避し自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止とその対応についてのマニュアルを整備し、全ての職員に周知し、資料の回覧や勉強会を行っている。職員間の連携を密にし注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	資料の回覧や勉強会にて学び、相談に応じる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の写しを事前に渡し、目を通してもらっている。契約前や契約時・契約後も疑問点には説明を行っている。改定時の説明は書面にて行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見・要望は家族にも知らせ、サービスに活かしている。また、運営推進会議でも取り上げ、外部者への公表の機会を設けている。また、利用者の状態の変化には、個別に面談をするなど、不安や本意を聞いている。	常に家族等と遠慮なく話しやすい雰囲気をつくり、利用者の若い頃の話聞き、取り組みのヒントにしたり、症状の変化による家族の不安に寄り添っている。年一回の家族会では弁当を広げながら花見など共に楽しい1日を過ごしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同主任会議フロア会議等で意見や提案を聞き、その都度適切に対応している。毎日、昼の決まった時間に1F2F合同のミーティングを行い、その内容は連絡ノートで全員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・特別手当等に処遇改善を活用し、労働時間の希望には個別に対応している。また、年度始めに各自の目標を標語にし掲げたり、今年度初めて職員の子どもで小学生以上を対象に行った「お仕事参観」では、責任とやりがいを持ち、生き活きと仕事をしている姿を見せることが出来た。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数の浅い職員から順に、外部の研修を受講させている。新庄市地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座は、全職員が受講した。	利用者の午睡時に1・2階合同でミーティングを行い、情報の共有や問題の対策を話し合っている。職員同士が相談しやすい雰囲気作りをし、時にはひとり瞑想できる時間を設け気分転換を図り、状況によっては配置換えをするなど環境を整えている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区グループホーム連絡協議会や村山ブロックグループホーム連絡協議会で同業者の交流を行っている。認知症ワンポイント個別相談会は、市内の同業者と共同で開催した。	村山地区や最上地区のグループホーム協議会に加入し、会合には積極的に参加している。行事や取り組みなどを学び、リスクマネジメントの情報なども参考にしながら有意義な交流となっている。	

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、担当ケアマネジャーから情報を聞き、また事前面談では必ず本人に会い直接話を傾聴している。本人の思いに応えられるよう、何をしたいか、何が不安かを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞き取り、情報を共有し、関係作りに努めている。家庭の延長のような暮らしができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所のケアマネジャーや地域包括支援センター、必要に応じて主治医と地域医療連携を図りながら、本人・家族の思いも確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・配膳・調理・片付け等をそれぞれの生活リズムを大切にしながら共に行動し、その中で人生の先輩に教わり、共感・感謝の気持ちを持ち、言葉と交換している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、必ず状況報告を兼ねて家族と話をしている。また、毎月便りで近況報告を行っている。遠方の家族や、なかなか面会に来られない家族へは電話連絡で情報を共有している。状況の変化時の対応方法についても共に考え、対応するよう努めている。年1回は家族会を催し交流を図っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に、住んでいた近所の知人・友人・親戚・姉妹の方の面会や、家族の協力で、自宅への外出をして頂いたり、馴染みの場所へのドライブをしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が一緒にお茶の時間を過ごし、談話を楽しめるように配慮している。また、制作活動を通して利用者同士が協力し交流を図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される際、これまでの生活環境・支援の内容・注意点などの情報提供を行い、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう心掛けている。また、退居されて数年たった今でも、家族の方が家で育てている花を持って来所してくれるなどのつながりを持っている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から行きつけの理容室に通っている方は、現在も継続しており、散髪がてら会話やお茶を楽しまれている。それぞれの家族との外出には、本人の体調を鑑み対応している。	家族等からの情報とお茶の時間や入浴介助中の会話など、日々の暮らしの中で利用者の思いを把握している。生活歴なども参考にしながら、喜んでもらうためのアイデアを出し合い外出などの企画に盛り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親戚・ケアマネージャー等から情報を提供して頂き、生活歴・生活習慣や得意とすることなどを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れをシートに作成し、トイレの声掛けのタイミングや不穏時の行動等、現状の把握に努めている。また、毎日の引継ぎは、フロア内全職員が周知出来るように、引継ぎノートを使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れながら、本人が快適に過ごせるよう担当者と話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族より確認して頂き、サインしてもらっている。	本人の思いを最優先し全職員の気づきを参考にして3ヶ月毎に個別支援会議を行い、意見は出来るだけ計画に反映させている。家族の思いや意見なども受け止め一人ひとりに合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・健康管理記録・ケアプランチェック表を活用し、職員間で日中・夜間の様子、状況の把握やケアを相談できるようにしている。職員間ノートの活用により統一したケアが行えるようにしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同町内にある公共施設の利用や、地域の催し物を把握し、利用者の個々の嗜好に合うものを進め、本人の意向のもと参加支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医だけでなく、入居の際以前からのかかりつけ医との選択も、本人・家族の意向を踏まえ、決定して頂いている。緊急時の受診の際は、当ホームの協力医が近く、より迅速な対応が可能である。	従来のかかりつけ医か協力医の往診を希望によって選んでもらい、受診付き添いもしている。医師には日常の記録を渡し状況を知らせ、結果は個人記録に写し共有している。配薬は、前日夜勤者が準備したものを2人でチェックしながら本人にも確認して飲んでもらい誤薬のないよう充分注意している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が毎日の健康管理や状態の変化に各々の観点からの意見を介して相談・連携し、適切な受診等を行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居の際、生活記録・健康管理記録書等も活用し、生活介護概要票を作成したり、かかりつけ医紹介状も合わせ、適切な医療が行えるよう病院の相談員と情報交換や面談を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合の対応の指針を説明し、家族より同意を得ている。重度化に際しては、医師・家族・職員が本人の意向を踏まえ相談し、本人が以後適切な介護・支援が受けられるよう対応している。	家族等には、医療行為が出来ないので看取りはしない事を伝え理解を得ている。日頃の様子から低下が見られて来た時には、協力医を交え家族等と本人にとって良い介護が受けられる方法を話し合い、対応を考えながら支援している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化し、連絡網を作成、周知・徹底に努め、目に付く所に掲示している。救急の初期対応に関しては、救命救急手当の実演・演習を行い迅速に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火担当者研修に参加し、火災・災害に関する知識を学び、予防に努めている。毎月の避難訓練により、全職員の意識付けを行っている。消防署・防災設備業者より助言して頂き、改善に努めている。また、近隣の方からも参加してもらい、協力体制を築いている。	年に1回消防署と防災業者の立ち合いのもと訓練を行っている他、毎月想定を変えた避難訓練をするなど、利用者にも何か起こった時の身の処し方の訓練を行っている。器具の点検も法定期間内に終えるよう気を付けている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の関わりからその方の性格を知り、その方が安心できる声かけや対応をするよう心掛けている。プライバシーに配慮しながら、その方の訴え・気持ちに沿えるよう努めている。	日常の会話から把握した趣味や得意とする事などを引き出し生活に生かして貰うようにしている。言葉遣いも命令調にならないよう気をつけ、スキンシップも常にこれはどうだろうかと回りの職員で話し合いプライドを傷つけない支援を心掛けている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞けるよう、一人ひとりの方と関わる時間をもつように心掛けている。話をする際は傾聴する姿勢をもち、良い雰囲気を作り、本人が自己決定しやすいよう配慮している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、その方のペースで生活できるよう配慮している。本人の希望を確認しながら、活動・行事を進めている。本人の希望で縫い物をしたり、晴れた日には散歩や日光浴を行ったりしている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自己管理できる方には、その日着たい服を選んで頂いている。また衣類の汚れ、ほつれ、破れ等に気づいた時は、声を掛け洗濯、修復をし、気持ち良く着て頂けるようにしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、メニューに取り入れたいしている。また旬の物を使うことで、その季節を感じながら食事を楽しんで頂けている。盛り付けや食器拭き、野菜の皮むきなどできる範囲で調理に参加、協力して頂いている。皆一緒に食事をとり、会話も楽しみながら食事ができるよう配慮している。	週2回はホームメニューを取り入れ献立してから買い物も利用者に手伝いをして貰いながら準備し、他の日は献立と材料の宅配を受けている。長寿会(誕生会)で外食をしたり、行事食もその折々に取り入れ楽しみ多い食事風景を繰り広げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養バランスやカロリーに気をつけた食事を提供している。週末はホームで旬の物を活用したメニューを考え、提供している。一人ひとりの状態に合わせ、食べやすいよう食事の形態を工夫している。水分摂取量が少ない方には、こまめに声がけ、提供をしている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声がけ、できない方には見守り、介助をしている。拒否がある場合は時間を置いて様子をみたり、職員も一緒に歯磨きをするなど工夫している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の生活リズムに沿って、起床時、食事の前後、就寝前などに声をかけ誘導している。本人が訴えた時やトイレのサインを見つけた時は速やかに対応するよう努めている。衣類の上げ下げなど、できることは本人にして頂いている。排泄のチェックは毎日しており、自立している方にも排便の確認をし、健康を管理している。	排泄チェック表を利用しながら3時間おきにさりげなく声をかけ確認している。日中は布パンツで夜はリハビリパンツに変え、時間で起している方もおり、習慣も大事に考えた介助をしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないようこまめに水分摂取を促したり、食事では乳製品や食物繊維の含まれる物を提供し、また下剤の調整をしている。運動面では、TV体操や足踏み運動、風船バレーなどを取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態をみながら、本人の希望を確認し、行っている。好みのお湯の温度に調整をしたり、一緒に会話や歌を取り入れながら入浴して頂くことで、より満足して頂けるよう努めている。拒否がある場合は時間や日にちをずらして対応している。	朝のバイタルを目安にして、滑って転んだりしないよう安全に気を付けながら、1対1、場合によって二人介助で入浴支援をしている。長湯にならないようにまた、身だしなみにも気を配り、水分補給も怠らないでゆったり気分になってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるよう、日中にレクリエーションや日光浴を取り入れている。日中でも疲れた時にソファーや自室で休んで頂けるよう配慮している。夜間眠れない人には傍についていたり、ホットミルクを提供したりし、眠りやすくなるよう工夫している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれのファイルに保管している薬の説明書を読み、理解している。また主治医や薬剤師の指示のもと、注意事項に気をつけながら服薬の支援を行っている。新しい薬が処方となった時には、特に気をつけて状態観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に基づき、利用者が楽しく作業できる役割や活動を取り入れるようにしている。また長寿会や季節の行事、読み聞かせ等を行い、楽しみになるよう工夫している。行事後には写真を掲示し、楽しかったことを思い出して頂けるようにしている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブや散歩を行っている。長寿会や行事で利用者のリクエストに応えたり、季節の行事として花見や祭りに行ったりしている。家族の協力を得ながら外食・外出等も行い、リフレッシュして頂きながら生活できるよう支援している。	田んぼの様子を眺めるだけでも楽しく、週に一度はドライブに出かけている。散歩や近くのプラザに絵を見に行くのは日常のことで、月1回は長寿会や四季の花見等を企画して出かけ、楽しい事の1つになっている。家族も中々連れていけないのに連れて行ってくれて「ありがとう」の言葉も多く聞かれている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態をみて、家族と相談の上、使用できる範囲内の所持を支援している。所持する際は、他者とトラブルにならないよう配慮している。お金を持つことで、外出や買い物などの楽しみにつながるよう支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えに合わせて、対応している。自分で電話をしたり手紙を書いたりできる方がいないため、希望があった際は、職員が電話をかけ、つないでいる。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう家具の配置や色などに気をつけている。また気温や湿度も数値をみて、冷暖房の調整も行っている。リビングや居室の周りに季節の装飾をし、その時の季節を感じて頂いている。装飾は一緒に作ることで交流する機会にもなり、多くの利用者と楽しみながら活動・生活できている。	1階リビングはテーブルから離れずに過ごす人が多く、2階はテレビの前に集まり作業をしたり体を動かしたりと自分たちの時間を過ごしている。季節を感じられるような装飾を考えて一緒に作り、利用者同志も工夫しながら作り上げることに満足しながら過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファとテーブル席があり、利用者それぞれが気分や活動に応じて好きな方で過ごされている。気の合った利用者同士が会話しながら、TVを観たり、創作活動を行ったりしている。生き物（金魚）とふれあうことができる。独りになりたい時には、自室(個室)があり、他者を気にせず過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自宅で使っていたものを使用している。タンスや布団など馴染みのものを使って頂くことで居心地が良く、安心して生活できる環境づくりを行っている。	居室には利用者が好きなように配置できるよう、使い慣れた家具を持ち込んで貰っている。家族の写真や自分の作品を飾り、暮らしやすい部屋作りをしている。清掃は担当職員と一緒にしながら心地良い生活を送っている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレなどには名前を書いた紙を貼り、一目で見えて分かるよう工夫している。利用者が安心して自立した生活を送れるよう、安全で生活しやすい環境づくりに努める。		